

〔古事記上〕所殺迦具土神之於頭所成神名正鹿山上津見神○中次於胸所成神名游藤山津見神

〔古事記傳五〕胸は、身根の意かと多くいへり、古言に幸

〔日本書紀神代一〕書曰、素盞鳴尊曰、韓郷之島是有金銀、若使吾兒所御之國不有浮寶者未是佳也、乃

拔鬚髯散之、即成杉、又拔散胸毛是成檜、

〔日本書紀神代二〕一書曰○中天神見其矢曰、此昔我賜天稚彥之矢也、今何故來、乃取矢而呪之曰、若以

惡心射者、則天稚彥必當遭害、若以平心射者、則當無恙、因還投之、即其矢落下、中于天稚彥之高胸、因

以立死、此世人所謂返矢可畏之緣也○中高胸此云多歌武娜娑歌、

〔日本書紀神代一〕書曰○中故特勅天鈿女曰、汝是目勝於人者、宜往問之、天鈿女乃露其胸乳、抑裳帶

於臍下而笑、嚙向立○下

〔萬葉集古今相聞往來歌〕正述心緒、

黒玉之宿而之晚、乃物念爾、割西智者、息時裳無、

〔日本靈異記上〕凶女不孝、養所生母、以現得惡死報緣第廿四

故京有一凶婦、姓名未詳也、曾无孝心、不愛父母、母當齋日、不炊、思念齋食、便就女邊而乞飯、其女曰、今

家長寺我亦將齋食、除此以外、无飯供母、時其母有稚子、携之還家、俛視道頭、有遺裹飯、拾之慰餓、猶勞

寐室、夜半之後、有人來扣戶曰、汝女高叫、吾智有針、方將垂死、故可往看、母以疲寢、不得往活、其女終死

不復相見也、不孝養而徒死者、不如讓分供母而死耶、

〔大和物語上〕平中○中此女いかにおぼつかなくあやしと思ふらんと戀しきに○中人なむきて

うちた、くたそととへば、なほそうのきみに、ものきこえんといふ、さしのぞきてみれば、この家

の女なり、むねつぶれて、こちこといひて、ふみをとりにみれば、いとかうばしきかみに、きれなる

かみを、すこしかいわがねてつゝ、みたり、いとあやしうおぼえて、かいたる事をみれば、